

小学校中学年における PBSの手法を取り入れた学級経営

～エビデンスに基づく実践を通して～

学級の実態・担任の思い


自分の思いや考えを
積極的に発表してほしい

自分から進んであいさつが
できるようになってほしい



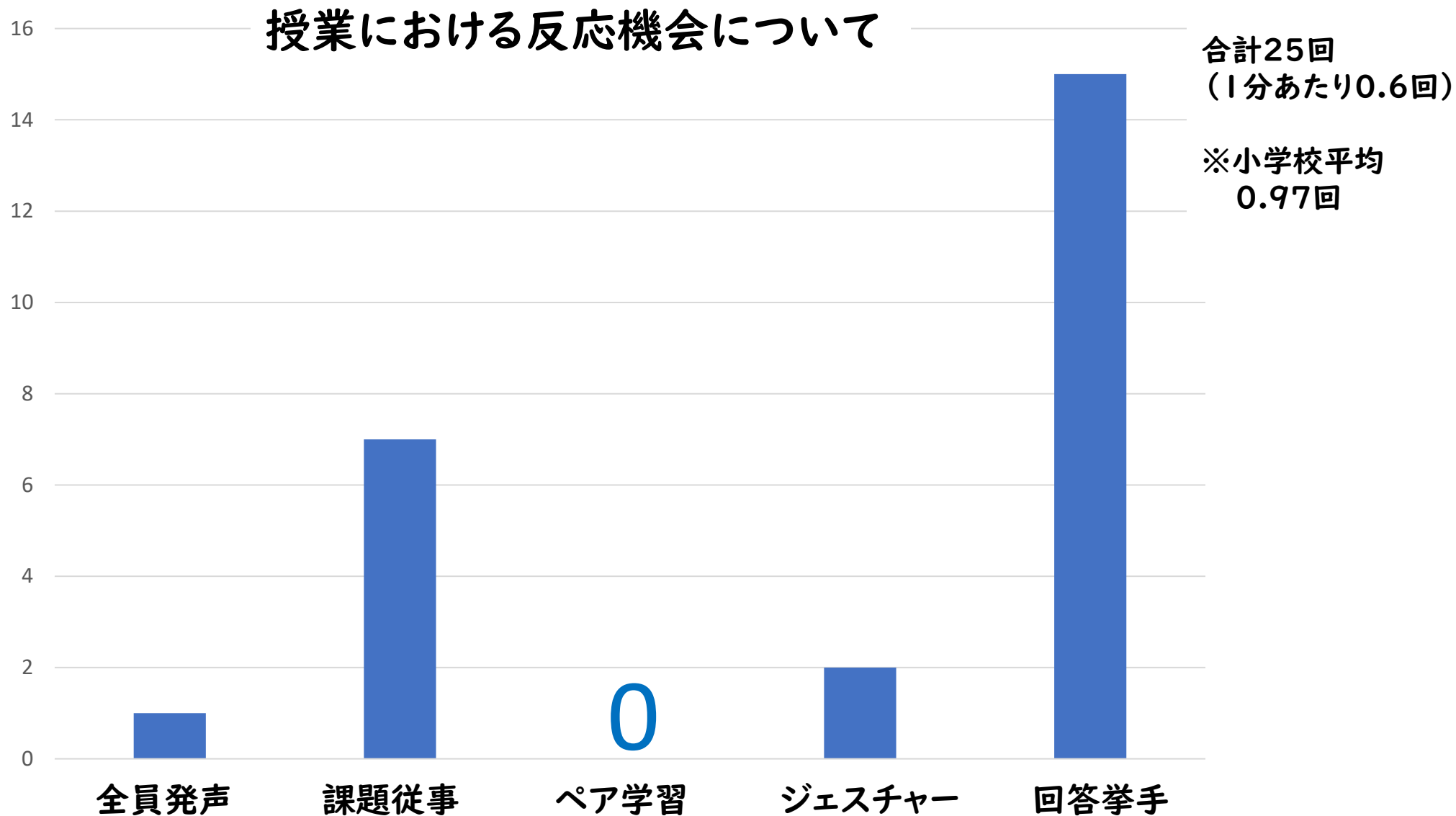
チャイム着席や授業準備の
習慣が身に付いてほしい

学級コンサルテーションについて

- ① Classroomマネジメントアセスメントフォーム回答
 - ・ 自分自身の学級経営の振り返り
- ② Classroom PBS指導計画の立案 
 - ・ 目標の設定、方法の確認
- ③ 授業撮影
 - ・ 月1回程度（道徳の時間を中心に）
- ④ プロジェクトチームによるフィードバック
 - ・ 称賛回数、反応機会の測定
 - 次回授業撮影へ

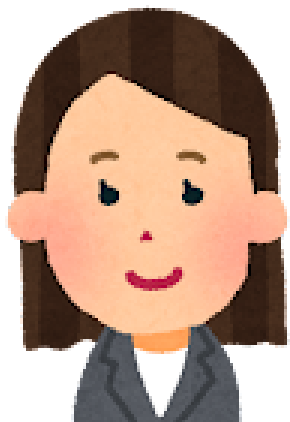
		指導場面：道徳の授業と3校時
学級で期待される姿	「学級で期待される姿」に沿った学級の指導場面での具体的な行動 (3-5つ、『～する』という表現で)	
やるき	授業中に1回はグループや全体に意見を言う。	
ほんき	朝、教室に入るときに自分からあいさつをする。	
むてき	教科書と筆記用具を準備して、チャイムの合図を自分の席で聞く。	
「学級で期待される姿」に沿った 具体的行動を教える 手続き（T） 1. 具体的行動を説明する, 2. 良い例と悪い例を示す, 3. 練習する, 4. フィードバックする		
【行動1】		
1. 授業中に意見を1回は発表する。たくさん意見が出てきてより授業がよりよくなる。		
2. ペア活動やグループ活動, 全体に向けて意見を言えること。誰にも意見を伝えられないこと。		
3. ペア活動, グループ活動の順で意見を伝える練習をして自信をもたせる。		
4. 自分の意見が言えた児童を褒める声かけを行う。最初は, 詰まっても発表しようとした勇気を褒める。		
【行動2】		
1. 朝, 教室に入る前に挨拶をする。お互いの気分が爽やかになる。すてきになり隊をめざそう。		
2. 大きな声で挨拶をして教室に入ること。無言で入り, 先生から挨拶されること。		
3. 教室に入る前に挨拶をすること, できればその挨拶に反応するやりとりを児童に見せる。		

【6月】授業撮影時の測定結果



アドバイザーからの助言①

6月分撮影後の第1回コンサルテーション(フィードバック)



- ・ポジティブな対応は10分間あたり2~7回(5分に1回以上)行うことが推奨されています。
- ・ポジティブとネガティブの比率は4:1が望ましいとされています。

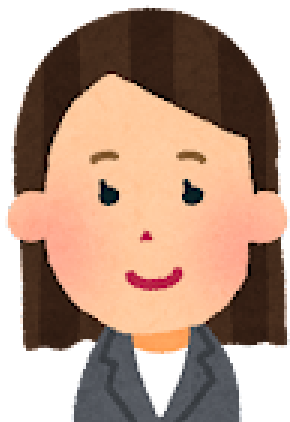
- ・コンサルを通して BSP※ や GP※ の称賛回数を増やしていきましょう。

※ BSP (behavior-specific praise)・・・言語称賛の中で称賛の対象となる具体的な行動について言及があるもの

※ GP (general praise)・・・称賛の対象となる具体的な行動について言及がないもの

アドバイザーからの助言①

6月分撮影後の第1回コンサルテーション(フィードバック)



- ・学級の子どもたちですが、全体的にやや元気がない印象を受けます。
- ・反応機会を増やすことで称賛回数を増やし、学習に対する意欲や授業参加率を高める工夫をしてみましょう。



次回授業に向けて

- ・ 称賛回数を増やす(全体・個人に対して)
- ・ 反応機会を増やす(称賛回数増加の手立て・活発に意見を出し合える雰囲気づくり)

授業における手立て①

机間指導で個々に称賛



ポイント

- ・活動内容を分かりやすく簡潔に伝える
- ・素早く全員に声をかけることを意識（GPメイン）
- ・学習に集中できていない児童に対する声かけ（叱責ではなく「どうすればできるか」を提案）



「こうすれば褒めてもらえるぞ!」
「この方法なら頑張れるかも・・・」



学習の意欲が高まり、活動がスムーズに

授業における手立て②

望ましい行動をしている
児童を全体場で称賛



ポイント

- ・具体的な称賛を意識（BSPメイン）
- ・まねしてできるようになった児童を素早く見つけて、すぐに称賛する。

「あの子のようにすればいいんだ!」
「わたしも褒められたい!」

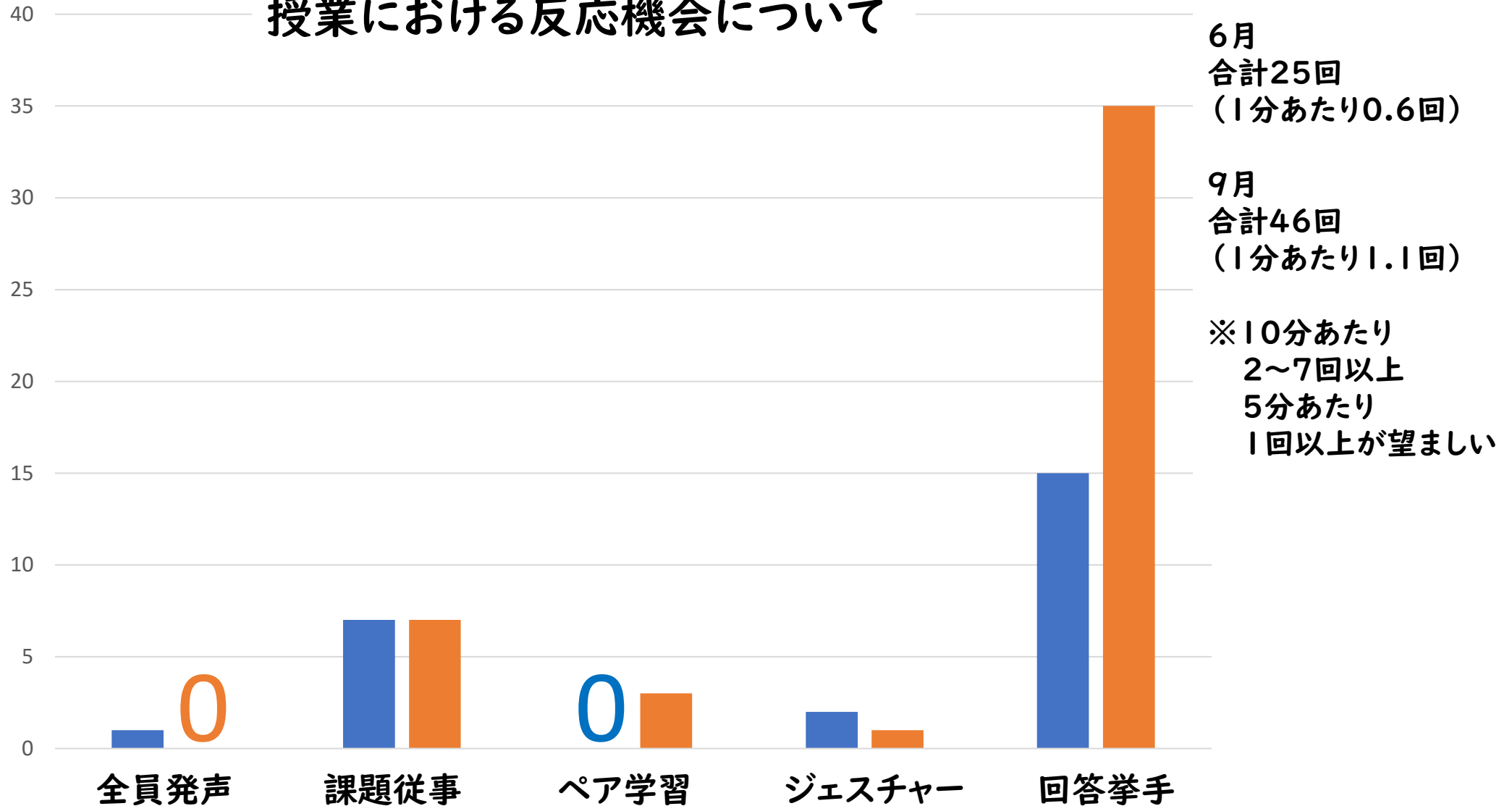
望ましい行動を実践する児童の増加

6月測定結果との比較

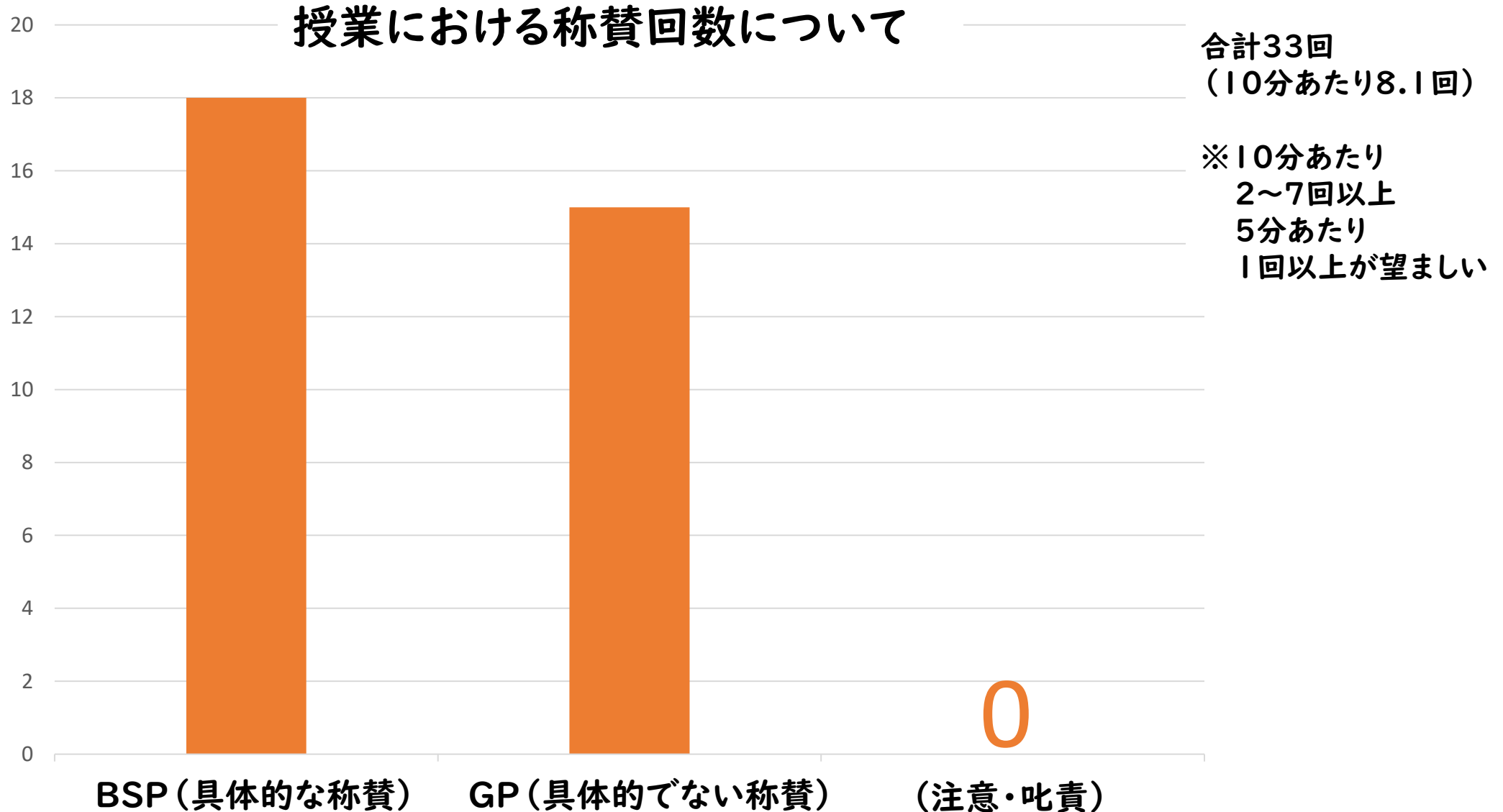


6月 9月

授業における反応機会について

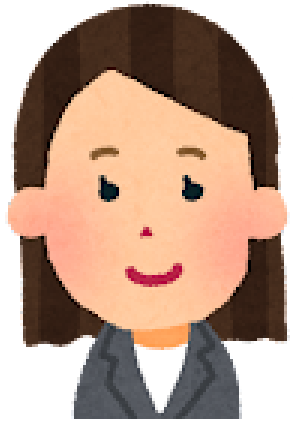


【9月】授業撮影時の測定結果



アドバイザーからの助言②

9月分撮影後の第2回コンサルテーション(フィードバック)



- ・称賛回数が劇的に増えました!素晴らしい!
- ・友達の意見を聞いて自分の考えを深めることができるようにするためにペアやグループでの活動を工夫してみましょう。



次回授業に向けて

- ・自分の考えを表現する機会の設定(反応機会の増加)
- ・ペア学習の工夫(友達の意見と自分の考えをつないでいくための手立て)

授業における手立て③

ネームプレートを使って
思いや考えを可視化



ポイント

- ・「自分の考えがネームプレートで表現できた」ということを称賛する。
- ・発表できる児童は積極的に称賛する。

「発表は苦手だけど、この方法なら
自分の思いをみんなに伝えやすいな」

自分の考えを伝える機会の確保

授業における手立て④

友達の意見を聞き、
他の友達に伝える活動



ポイント

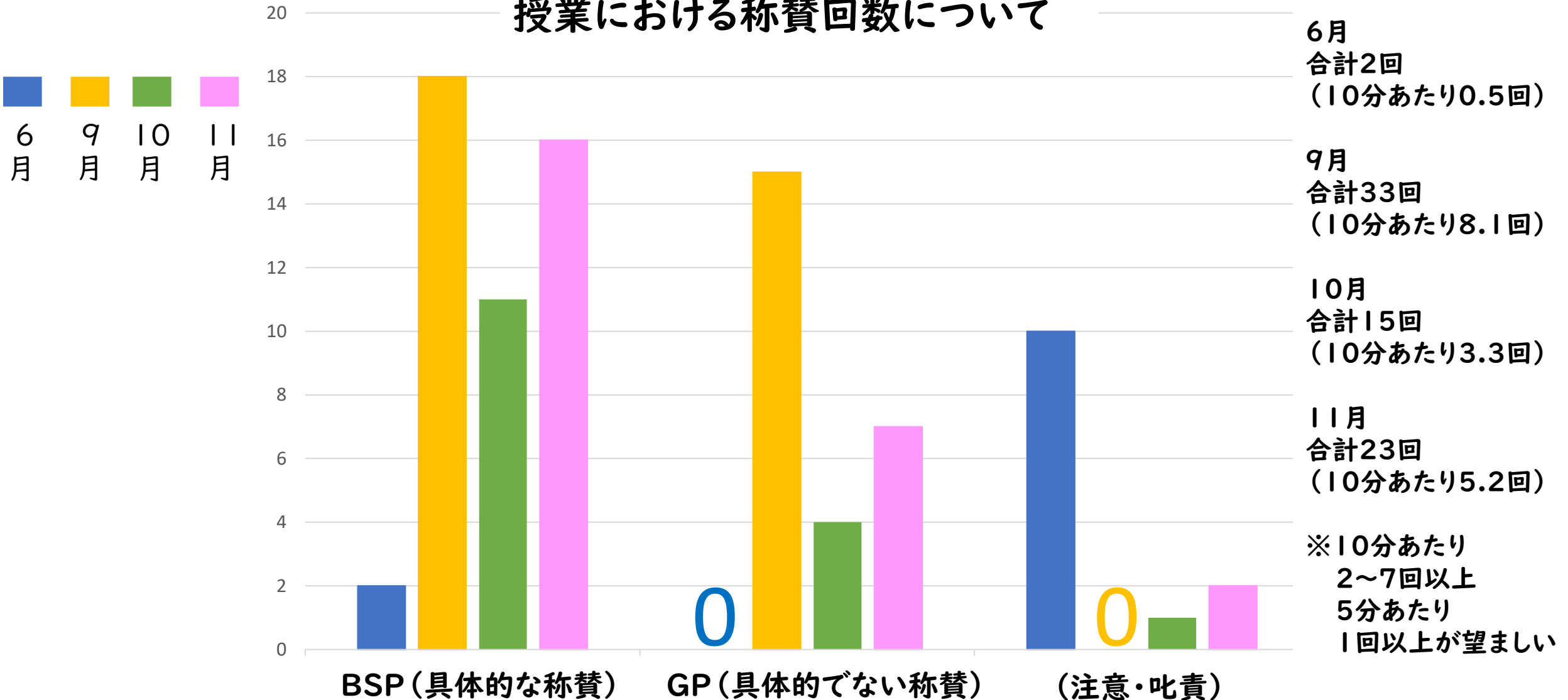
- ・(課題は簡単に、たくさんの友達に伝える機会を増やす)
- ・(意見の伝え方、聞き方を褒める)

「たくさんの友達に意見を伝えられた!」
「自分と似た意見・違った意見の発見」

友達の考えをより理解することができる
自分自身の考えと比較する機会の確保

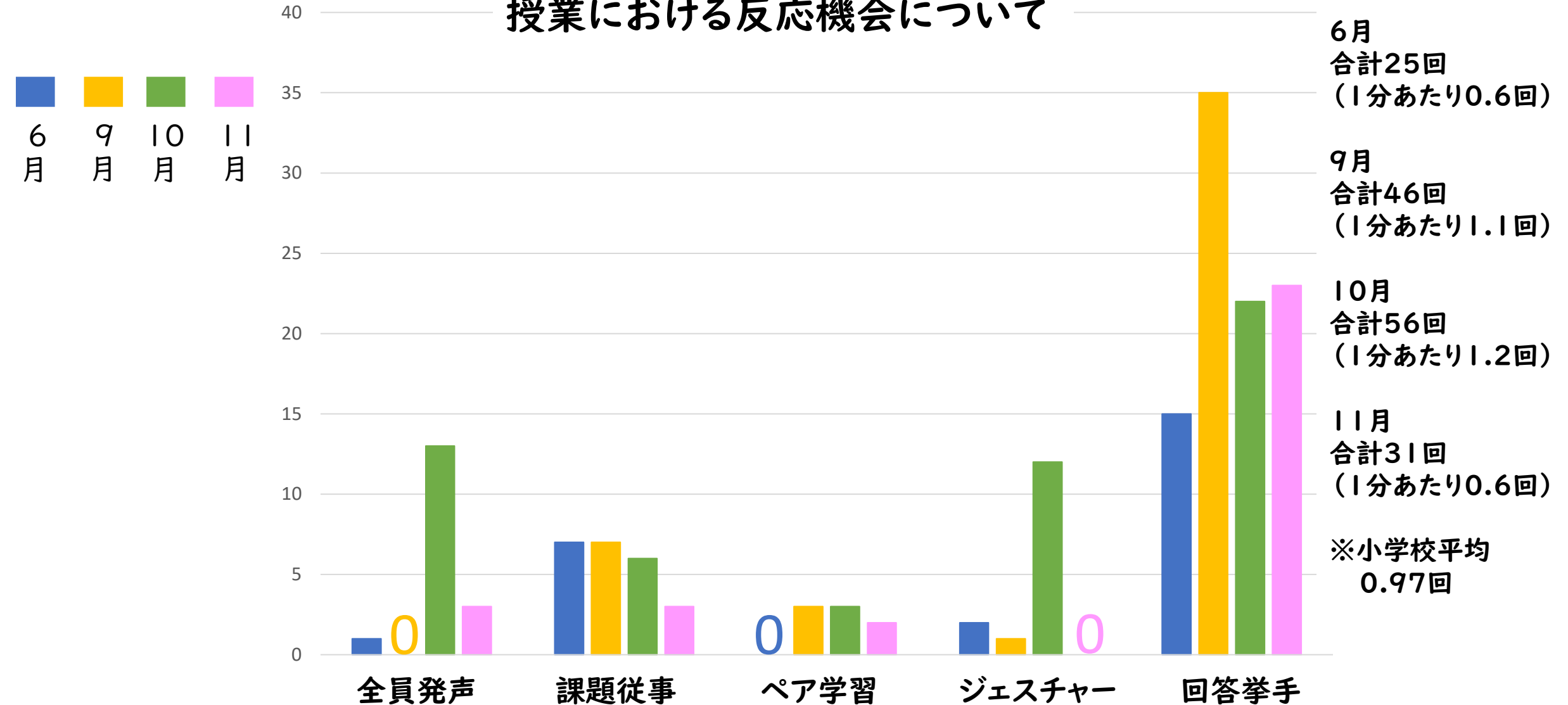
授業撮影時の測定結果

授業における称賛回数について



授業撮影時の測定結果

授業における反応機会について



結果（コンサル前と後の比較）

	コンサル前の授業 （6月撮影時の数値）	コンサル後の授業 （9月～11月撮影時の平均値）
授業における称賛回数	2（10分あたり 0.5回）▶	24（10分あたり 4回）
授業における反応機会	25（1分あたり 0.6回）▶	45（1分あたり 1回）
注意・叱責	10▶	1



成果

- 活動時間をたくさん設定することで、意図的に褒める場面が増え、発表できる児童も増えてきた。
- 様々なペア活動を取り入れたことで、児童の交流機会が増え、意見が深まった。発表時には「似ている」「付け足し」など一問一答ではなく繋がりのある授業になった。
- PBSを意識していないと、できていない児童に目が向きがちになるので「当たり前前にできていることを褒める」こと、叱責した児童はその後のフォローや褒めることを大切にしてきた。



児童の変化と感想

- 教師の話に対する反応がよくなり、クラスが発表しやすい雰囲気になってきた。
- 目標などを決める時は、児童の意見も大切にし、できたことを評価（褒める）することで、継続して取り組むことができる。
- 褒めることが得意ではなかったもので、かなり意識しないとPBSを取り入れた授業ができなかったが、継続していくことで教師も変わり、児童の変容も見られた。
- PBSを意識しても注意する場面はあるが、短く伝えること、「どうしたらよかった？」など考えさせるような指導を意識するようになった。

ここが成功のポイント！

得意な授業からでもいいのでコツコツ継続すること！